

評価項目	評価	取組状況・成果・課題	改善策	学校関係者評価等でいただいた意見等
各学校での目標（重点は○数字）・具体策				
I 特色ある学校づくりのための学校運営		・職場体験学習では地域コーディネーターの尽力で、新規の事業所開拓ができた。 ・町の保健師や栄養士の方等に授業を行っていただき、専門的な知識を学ぶことができた。	・地域学校協働本部との連携を深化させ、より充実した学びになるよう実践を重ねていく。	・いつもは接することのない専門的な大人の話を聞くと、何かヒントになることが得られると思うので、機会を作ってほしい。
1 ふるさとを学ぶ機会を充実させる。 ・地域の特色を生かした総合的な学習の推進	A			
② 「感動」を生む体験活動を推進する。 ・教科横断的な視野に立ち、体験活動を効果的に取り入れる。 ・学年間の連携を密にとり、「感動」を生む体験活動を推進する。	A	・体育祭やすずかけ祭に生徒のアイデアを取り入れ計画・運営することで達成感を味わわせることができた。 ・行事や体験活動だけでなく、その準備や後片付けにも価値を見出させることで、生徒のさらなる実践意欲につながった。	・感染症対策との両立を図りながら、効果的な取り組みになるよう工夫を重ねていく。 ・生徒が得意なことや努力したこと等に対して、がんばりを認める言葉かけをして実践意欲につなげていく。	・多少難しい課題を与えた方が、考えたり工夫したりして、達成感を得られるのではないかな。 ・感染症対策の中での行事や体験活動はたいへんであったと思う。解除後の充実に期待する。
II 確かな学力の向上を図る学習指導		・生徒が自分の考えをしっかりとち、話し合うことでさらに練り上げるように、意見交換や議論の場を意図的に設けてきた。 ・「那珂川スタイル」では、適用問題を多く取り入れたり、説明型の振り返りを行ったりするなどアウトプットの機会を多くとった。少しずつではあるが学力の向上が見られた。 ・英語教育の充実に課題が残る。	・意見交換や議論の場、「那珂川スタイル」の授業は継続して行い、内容を工夫することで更なる学力向上を目指していく。 ・英語では、英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合えるよう、言語活動を充実させたり、ALTを効果的に活用したりして学力の向上を図る。	・「那珂川スタイル」で学力の向上を図る指導ができてよいと思う。
① 学習指導を充実させ学力向上を図る。 ・主体的・対話的で深い学びの充実 ・家庭と連携した基礎的・基本的内容の定着 ・「那珂川スタイル」の確立 ・英語教育の充実 ・タブレットPCの効果的活用	B			
III 自己指導能力を高める児童・生徒指導		・道徳の授業の記録に教師のコメントを添えて教室や廊下に掲示し、道徳性の向上を図った。 ・学業指導では、委員会や係活動を充実させ、生徒が自己有用感を持てるよう働きかけてきた結果、学びに向かう集団が徐々にできてきた。	・道徳的实践意欲につなげるための評価の方法を研究する。 ・学業指導をさらに充実させるために、今後も生徒の活動への価値付けを意図的に教師が行っていく。 ・教育相談の記録は校務支援ソフト上で行い、必要な情報は全職員で共有する。	・道徳は多様な意見を認め合える場になってほしい。 ・一人ひとりの生徒と向き合うことで、結果や学びの集団ができ、成果を感じた。 ・全職員の情報共有は大切なことだと思う。
1 豊かな心を育てる指導を推進する。 ・「特別の教科 道徳」を要とした道徳教育の充実 ・「学業指導」の充実 ・人権教育の推進・充実 ・自己有用感のある学年・学級経営 ・教育相談の充実と組織的対応の確立	B			
2 自分の生き方を考える教育を充実させる。 ・キャリア教育・進路指導の充実 ・ハッピースローププランに基づく小中連携教育の推進 ・「読書活動」の推進	A	・進路指導室の運営を充実させたり、生徒や保護者の相談に丁寧に対応したりした結果、多くの生徒が自分の生き方や進路について真剣に考え、実現に向けて努力できた。 ・生徒が読書に親しむ機会を充実させた。	・キャリアパスポートを活用し、自身の成長を実感させ将来の生き方につなげていく。 ・生徒会図書委員会を活用し、「子どもたちに読んで欲しい本 100 選」の周知を工夫したり、学級文庫に取り入れたりする。	・少し広い視野をもって世の中が直面していることなどにも興味を持ってもらいたい。 ・読書を楽しむきっかけや環境の工夫をお願いしたい。
IV 健康・安全、体力の向上		・安全点検の日を設定し、教師と生徒がともに危険箇所等の確認を行うようにした。生徒の視点が加わることで、より細かくチェックすることができるようになった。また、生徒の安全への意識が高まった。 ・消毒や換気等、感染症対策を徹底して行い、非常に低い感染状況だった。	・消毒、換気、三密の回避等の感染症対策を継続して実施する。 ・組織として危機に対応できるよう、危機管理マニュアルをより実効性のあるものに更新していく。	・集団生活に必要な対策で、日々の見直しが大切だと思う。
① 安心・安全な学校づくりを推進する。 ・教育環境の整備充実 ・生徒の危機予知能力の育成・向上 ・教職員の危機管理意識の向上 ・施設・設備の安全管理 ・感染症対策の徹底	A			
2 健康教育の充実と体力向上の推進を図る。 ・健康で安全な生活態度の育成 ・主体的に取り組む体力づくりの推進 ・安全教育・防災教育の充実 ・健康な心身を育むための食育の推進	A	・生徒の体力向上の意識が高まり、体育の授業では一人の見学者もなく自分の目標達成のために課題に取り組むことができた。また、朝の体力づくりに参加する生徒が多かった。	・生徒の防災意識をより高めるために、火災や地震以外の災害を想定した避難訓練を実施する。 ・小学校と連携した、保護者への引き渡し訓練を実施する。	・学校給食の重要性が言われているが、楽しく食べられるようになってほしい。 ・他校と連携しての訓練はよいことだと思う。
V 家庭・地域との連携		・コミュニティスクール導入初年度で、地域コーディネーターや学校運営協議会委員の方々とよりよい学校にするために話し合えた。 ・学校運営協議会や地域学校協働本部の活動について職員や家庭、地域への周知がさらに必要である。	・学校運営協議会や地域学校協働本部の活動について、各種たよりやホームページ等で発信する他、学校行事の折りに紹介をしていく。	・実際に関わっていないとなかなか自分事としてとらえられない。情報の発信が重要だと思う。
1 「地域とともにある学校」づくりを推進する。 ・家庭・地域と連携した基本的生活習慣の育成 ・コミュニティスクールの効果的運営 ・ホームページや各種たよりによる情報発信	B			